
【地域の特徴を活かした交通環境学習実践事例】

(豊中市立桜井谷小学校 4 年の取り組み例、2005 年)

(1)はじめに

地球温暖化問題は、国際的に解決すべき深刻な問題として、特に先進国に有効な対策が求められています。地球温暖化の主要因である自動車から排出される二酸化炭素の削減が大きな課題としてクローズアップされていますが、本質的な課題は、現代社会の自動車利用のあり方が問われていると思われます。自動車利用の増加によって、交通渋滞を発生させ、経済活動の阻害、沿道環境の悪化などをもたらしていることから、バイパス道路建設等のハード整備だけではなく、ノーマイカーデーに代表されるように、利用そのものを見直して自動車の利用回数を減らすようなソフト施策もあわせて取り組むことが進められています。

豊中市における交通環境学習の取り組みは、自動車利用の増加に伴う地域環境問題について次世代を担う市民である子どもたちに状況を伝え、問題解決のための行動を考えてもらうソフト的なアプローチのひとつとして始まりました。平成 15 年 9 月 24 日に豊中市環境政策課（当時）、大阪府土木部交通道路室（当時）及び国土交通省近畿運輸局の 3 者の呼びかけによって「TDM・環境総合学習プログラム検討委員会」が小学校長、学識経験者、関係機関の職員を委員に迎えて設立されました。

この委員会によって交通環境学習の原型が形作られた内容は、現在も引き継いでいます。しかしながら、平成 17 年度以降は、当初目的と比べ、平成 17 年（2005 年）2 月の京都議定書発効に伴い TDM 施策等も包含する地球温暖化防止施策のアプローチに目的がシフトしてきています。

そのような短い期間ながら目的を温暖化防止にシフトしながらも、上記委員会設立以後の平成 15 年度から平成 17 年度の 3 年間、市内の 3 小学校とともに総合的な学習の時間や理科の時間にて、低公害車を用いた「クルマ大集合」を中心とした交通環境学習の授業を行ってきました。

平成 17 年度においては、桜井谷小学校から市環境政策室に相談が寄せられたことをきっかけとして、学識経験者も交えて学習プログラムを検討してきました。実物体験型教材として「クルマ大集合」を市が調整を行い提供してきましたが、子どもの教材そのものは学級担任により作成されたことから、学校の教育実情にあった学習内容となりました。

本市の交通環境学習については、「地域との協力」と「地域独自のテーマ」を大切しながら豊中の特徴を活かした交通環境学習プログラムを学校関係者と関係機関そして交通事業者と連携して作成しています。

また、交通環境学習を実施するにあたっての理念は、

- 1) 子どもに本物の体験を
- 2) 子どもに感動を
- 3) 子どもに未来の夢を
- 4) 学校教育の一助に
- 5) 教育現場の基本に従う

の 5 つとしています。

この理念に基づき、平成 17 年度に実施した桜井谷小学校での交通環境学習の概要を事例として報告します。

(2)学校教育における交通・環境学習の考え方

学校教育の場で交通環境学習を行うことから、環境問題の解決策を子どもに一方的に押し付け

ることを目的とするのではなく、あくまでも学校教育の一環として実施しています。

このように、交通環境学習は環境問題解決のための答えを一方的な情報提供として伝えるのではなく、日常の学校教育における各教科学習へつながることに気づくことを大きな目的とし、各教科が環境問題を考える基礎になることを理解してもらうことであると考えています。したがって、交通環境学習の実施後の交通行動変容の転換率であるとか、持続効果などは直接的に求めていません。

子どもにとって、身近な公共交通などを学びながら地球環境問題の解決を考えることは、身近なバスや電車などが温暖化防止に果たす役割に驚き、よりいっそう興味を持つことと思われま

す。このような、学校教育における交通環境学習の必然性に対して、公共経済学者の奥野信宏氏は著書の「公共の役割とは何か」の中で、“子どもの頃から、公共交通と自家用車の使い分けについて環境の視点で教育を行うことはあまり盛んではないと思うが、早急に取り組まなければならない課題である”と述べています。この指摘は、時代や社会が交通環境学習を必要としていることを示唆しているのではないかと考えます。

(3)平成17年度の学習実施状況

1)学習指導要領との関係

桜井谷小学校では、4年生の1学期から地域の環境調査を実施していましたが、子どもの気づきや疑問である中央環状線周辺の空気の汚れなどの原因について、引き続き2学期においても学習することから、市環境政策室との学習内容の相談を経て、「クルマ大集合」を中心とした学習プログラムを実施することとなりました。学習計画との位置づけとしては、4年生の「人権・総合的な学習カリキュラム」のテーマである「みんなで考えよう桜井谷の未来を」の授業の一環として実施しました。一学期に学年独自で、校区の自然環境や都市基盤の様子を調べていました。子どもたちは、その中でも校区にある府内でも有数の交通量を誇る府道中央環状線について、自動車が多いことに気づき、「排ガスが臭い」、「空気が汚い」、「沿道のフェンスなどが黒くすすけている」等、自動車利用による環境悪化の問題を発見しました。このことだけでも、社会科にある「自分たちが住むまちの都市基盤整備の概況」や理科の「燃焼」の単元と結びつくものであると思われま

す。そのような問題発見に対して、学級担任から2学期の授業展開について相談を受けました。同時に理科では、「電気」や「太陽電池」を学習することから、ソーラーカーに関する学習も検討されていました。しかしながら、ソーラーカーは実用化には程遠くまた、自動車による環境問題の解決策が全てソーラーカーの導入になりえる話につながりやすいことから、実用化されている低公害車の情報を提供しました。実用化されている低公害車は科学、工業技術の粋を集めていますので、社会科の工業の発展や理科の燃焼等の単元ともかかわってきます。そこで、平成15年以降実施している「クルマ大集合」を提案し、特徴である実物体験を通してエネルギーや環境問題を学べることを2ヵ年の実績を踏まえて説明しました。そして、学級担任から「クルマ大集合」の実施の要請があったことから、この「クルマ大集合」を中心とした学習プログラムを作成することとなりました。

特に、桜井谷小学校の学習に関しては、先行的事例として平成15年度から実施してきた授業との整合性に重点をおきつつ、桜井谷小学校のニーズに沿ったプログラム提供に努めました。

授業内容の作成にあたっては、交通環境学習と学習指導要領の整合性を図るべく大阪大学大学院工学研究科の松村暢彦助教授の指導及び助言を得て、環境問題における交通のかかわりを社会科と理科の学習指導要領の目標と単元に結びつくように検討しました(表2.7参照)。

そして、市環境政策室で学級担任の要望等を把握しつつ、学校の要請に応えられるように関係

機関や事業者等と調整を重ねて授業内容を構成していきました。

表 1 交通環境学習と学習指導要領の関係

| | | 第3学年 | | | 第4学年 | | | 第5学年 | | | 第6学年 | | | | | |
|----|----------|---|------------------------|---------------|--|----------------------|-------------|--|-------------------------|-------------------------|---|--------------------|------------------------|-------------|---------------|-------------------------|
| | | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 1学期 | 2学期 | 3学期 | | | |
| 社会 | 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の一員としての自覚をもつようになる ・地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の産業の発展に関心を持つようになる ・環境の保全の重要性について関心を深めるようにするとともに、国土に対する愛情を育てるようにする | | | <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てるようにする ・平和を願う日本人としての世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする | | | | | |
| | 単元 | 私たちの市の探検 | 市の人々の仕事 | 昔の暮らしを調べる | 健康を守る工夫 | 安全を守る工夫 | 地域の発展に尽くした人 | 私たちの住んでいる県 | 私たちの住む国土 | わが国の食料生産と私たちの暮らし | わが国の工業生産と私たちの暮らし | 情報と私たちの暮らし | 国土を守る | 日本の歴史 | 私たちの生活と政治 | 世界の中の日本 |
| | 小単元 | 学校の周りの様子、市の様子 | 市の仕事調べ、店の仕事の工夫、工場仕事の工夫 | 古い道具調べ、行事 | 暮らしを支える水、ゴミの始末と活用 | 消防 | 郷土 | 県の地図を広げて | 国土の地形と気候、気候と暮らし | 食料のふるさと調べ、米作り、漁業 | 暮らしの中の工業製品、わが国の工業生産と工業地帯 | 放送局で働く人々、情報暮らしに生かす | 住みよい環境を守る(公害)、森林資源の働き | 国の成り立ち等 | みんなの願いを実現する政治 | 日本とつながりのある国の人々の暮らし、国際連合 |
| 理科 | 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物を愛護する態度を育てる ・光、電気、磁石の性質についての見方、考え方を養う ・太陽と地面の様子との関係についての見方や考え方を養う | | | <ul style="list-style-type: none"> ・生物を愛護する態度を育てる ・物の性質や働きの見方や考え方を養う ・月や星の動き、水の変化についての見方や考え方を養う | | | <ul style="list-style-type: none"> ・生物を尊重する態度を育てる ・物の変化の規則性についての見方や考え方を養う ・気象現象や流水の働きの規則性についての見方や考え方を養う | | | <ul style="list-style-type: none"> ・生命を尊重する態度を育てる ・物の性質や働きについての見方や考え方を養う ・土地の作りと変化のきまりについての見方や考え方を養う | | | | | |
| | 単元 | 昆虫と植物 | 光の性質、日向と日陰 | 豆電球と乾電池、磁石の性質 | 季節と生き物、水の変化 | 季節と生き物、温度と物の性質、電気の働き | 空気や水の性質、月と星 | | 天気の変化、植物の発芽と生長、動物の発生と成長 | てこの働き、植物の生長、天気の変化、流水の変化 | 物の運動、物の溶け方 | 人や動物の体、生物と環境、物の燃え方 | 生物と環境、水溶液の性質、土地のつくりと変化 | 電流の働き、生物と環境 | | |
| | 土木との関連事項 | | 太陽電池 | | | | | | | 自然災害 | | 二酸化炭素 | 酸性雨、自然災害 | | | |
| 道徳 | 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・美しいものや気高いものに感動する心を持つ ・生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもつて接する ・約束や社会の決まりを守り、公徳心を持つ ・郷土の文化と伝統を大切に、郷土を愛する心を持つ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 単元 | <ul style="list-style-type: none"> ・美しいものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念を持つ ・日々の生活が人々の支えあいや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応える ・公徳心を持って法やきまりを守り、自他の権利を大切にし進んで義務を果たす ・郷土やわが国の文化と伝統を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心を持つ | | | | | | | | | | | | | | |

注) 大阪大学大学院松村暢彦助教作成資料に追記

2)交通・環境学習を通じて伝えたいこと

対象が小学校4年生、11歳という年齢時期でもあり、環境問題や社会問題全般について、短期間では全てを伝え理解することは困難であることから、下記のことをどれか一つでも感じ、他の関連教科の学習のきっかけづくりになるような構成に努めることとしました。

- 1)自分たちの暮らしと地域社会(桜井谷)のつながりを知る。
- 2)人が集まって住んでいる地域社会だから問題が生じる(ゴミ、水、交通(安全、混雑、環境))。
- 3)生活にはエネルギーが必要で、現在自動車では石油系燃料がニーズにあってる現実。そのためには、誰が何をしなければならぬのかを考えてもらうことであると考えました。

3)実施プログラムのねらい-クルマ大集合を中心にして-

【概要】

- ・ いろんなクルマ（バス、乗用車、低公害車等）を準備し、それぞれの排気ガスの汚れを測定する。
- ・ 日常生活に必要なはたらくクルマのエネルギーを知る。

【ねらい】

- ・ 日常生活に自動車が役に立っていることと大気汚染の主要な発生原因の現実を知る。
- ・ クルマの種類（排気量、エンジンの環境性能、使用燃料の違い）によって空気の汚れ方が異なることを知る。
- ・ 校庭にクルマ大集合させることによって、非日常空間を演出し興味を持たせる。
- ・ 生活にはエネルギーが必要で、現在自動車では石油系燃料がニーズにあっている現実を知る。

【対象】

- ・ 小学校4年生：3クラス 110名、特別ゲスト：院内学級（さくらんぼ学級）
（学校長及び学年担任の協力を得て、子どもたちにとってつらい入院生活の気分転換として学校行事の楽しさを感じてもらいながら、学友との再会の機会となるように院内学級の子どもも招待した。）

【事前に必要な授業】:前日に講義を実施

- ・ 環境問題の深刻さやその原因となる物質
- ・ 汚染物質の環境への影響、健康への影響
- ・ クルマから汚染物質が出ていること（有機物（炭素）が燃えれば二酸化炭素、モノが空气中で燃えれば窒素酸化物）
- ・ 汚染物質を測定する手順
- ・ 石油系燃料と新エネルギー燃料の自動車燃料としての特徴や違い
- ・ 働く車を調べて、自動車の働き具合を調べる

4)学習プログラム

○目標

本授業を通して自分(たち)ができる地域にやさしい暮らし方を考えること

次のようなプログラムで実施した。

表 2 交通環境学習実施プログラム

| | 内容 | 学習内容 | 1組 | 2組 | 3組 | 担当・備考 |
|--------|------------|---|---|----|----|--------------------|
| 1 | イントロ | 1学期の振り返り | ○ | ○ | ○ | 学級担任 |
| 2 | レクチャー | どんなクルマがあるのか、どのような影響があるのか、性能や値段の予想、聞いてみたいこと働くクルマの数々 | 合同 | | | 大阪府土木部職員 |
| 3 4 | クルマ 大集合 | 9台のクルマが校庭に集合 1) 「いろいろなクルマの排ガスを見てみよう(排ガス調べ)」 ・天然ガスバス、ディーゼルトラック、ガソリン乗用車 2) 「さわってみよう学校に来たクルマたち(クルマ見学)」 3) 「近未来のクルマ燃料電池カーが走るよ(燃料電池車試乗)」 | 3クラス合同 (府、市、阪急バス、消防本部) ・燃料電池車、天然ガス車(路線バス、清掃車、乗用車)、ガソリン車、ハイブリッド車、ディーゼル車(消防車、ダンプ、清掃車) | | | |
| 5 | 感想 | ・感想を出し合う | ○ | ○ | ○ | 学級担任 |
| 6 7 | 何ができるか | ・1学期の事柄も交えて検討 | ○ | ○ | ○ | 授業：学級担任 教材：学級担任 |
| 8 | まとめ1 | ・こんなことが出来た、出来なかったのか経験を共有 | ○ | ○ | ○ | 学級担任 |
| | まとめ2 | ・発表形態 劇 | 合同 | | | |

(4)「クルマ大集合」当日の様子

1)校庭に集まったクルマ



2)学習1:「いろいろなクルマの排ガスを見てみよう(排ガス調べ)」



CNG 車の実験は阪急バス(株)の路線バス車両を使用



真中黒いくつしたはディーゼル車の排ガスを測定

3)学習2:「さわってみよう学校に来たクルマたち(クルマ見学)」



消防士さんに質問

阪急バス(株)社員さんの説明に興味津々



熱心に学習内容を書き込む子どもたち



保護者も燃料電池車に興味津々

4)学習3:「近未来のクルマ燃料電池カーが走るよ」



お待ちかねの試乗体験



本当に出る排ガスならぬ排水



5)子どもの様子(本物の働くクルマがやってきたので楽しさ倍増！)



表 3 協力機関一覧

| 内容（車種等） | | 協力先 | 備考 |
|------------|-------------|------------|-----------------------|
| 事前講座 | | 大阪府土木部 | オリジナル教材提供 |
| 車両提供 | 燃料電池車 | 大阪府環境農林水産部 | 車両提供及び説明者(2名)派遣 |
| | 天然ガス車（バス） | 阪急バス(株) | 車両提供及び説明者(2名)派遣 |
| | 天然ガス車（トラック） | 豊中市環境部 | 車両提供及び説明者(3名)派遣 |
| | ハイブリッド車 | 大阪府土木部、市 | |
| | ディーゼル車(市) | 豊中市環境部 | |
| 消防自動車（消防車） | | 市消防本部 | 車両提供及び説明者(6名)派遣 |
| プログラム検証 | | 豊中市 | |
| クルマ大集合総人数 | | | 約 50 名（上記以外の授業支援者等含む） |

「クルマ大集合」にあたっては、多くの関係機関及び事業者のご協力をいただきました。

(5) 学習発表会

「みんなで考えよう桜井谷の未来を」のテーマの中で行われた本交通環境学習は、学校行事である学習発表会で『あのまち このまち』桜井谷をすてきな町にするために」という劇の形で、4年生全員で全校及び保護者の前で披露されました。一学期の校区の環境調べから始まり、自動車が及ぼす環境影響のこと、そして自分たちが桜井谷をすてきな町にするための行動をまとめた劇となりました。

学級担任の方々だけで作成された演劇シナリオの内容のすばらしさに加え、110人の子どもたちの迫真の演技が感動的であり、加えてメッセージ性も高く感じられました。

おそらく交通環境学習の成果を学年劇の形でまとめられた事例は、この桜井谷小学校がはじめてと思われます。



排ガス調べ



くつした比較

写真 学習発表会の様子(クルマ大集合の場面)

(6) 交通環境学習を終えて-取り組みの振り返りと今後について-

豊中市では、今後の交通環境学習の取り組みについて、既に市内で取り組みを実施している学校関係者等からの意見を踏まえ、次年度以降も学校ニーズに沿いながら改良を加えて実施していく予定です。

桜井谷小学校の事例を振り返ると、準備段階ではプログラムの準備にかけられる時間は限られていましたが、関係者の連携によって成立することから、学級担任・府土木部・学識経験者・市環境政策室・交通事業者の役割分担を明確にしながら調整しました。学習の導入からフォローまでの子どもへの教えは、学級担任がされました。特別な授業（事前授業）は外部講師が担当しましたが、年齢に合わせた用語の使用など、実際のクラスの学習進捗状況を十分把握して教材を作成する必要が明らかとなりました。教材作成に際しても、詳細な事項での学校側の協力が必要なことがわかりました。

また、教材については、「クルマ大集合」という実物、実践の教材を提供でき、教材としての魅力やインパクトが強かったのも、より体系的な環境学習プログラムを組むには、年間の学習計画が立てられる2月から4月上旬までに学校側と意見交換が望ましいと考えています。

そして、交通環境学習の目的と少し離れますが、子どもたちから、「多くの人が自分達のためにこんなに努力してくれてありがとうございます。」というような感想もあったことから、交通環境学習以外での効果もあると思われます。多くの大人たちが子ども達のために汗をかけたことが、上述の感想になったのではないかと感じています。

また、本物の働くクルマを持ってきた大人たちとコミュニケーションを取ったということは、社会を支える大人たちから直接その仕事の意味を聞いたことにはほかならないと思われます。例えば消防自動車、路線バス、清掃車などの役割や仕組みを聞き理解することは、その自動車を使う人間の努力や工夫の大切さを学ぶこととなります。その仕事上の経験に基づく社会を支える大人の話は、次世代を担う人間として成長する子どもの人間形成の一助となると思われます。

知っているようで知らない交通の話聞き、かかわる大人と接することができる、この「クルマ大集合」を中心とした交通環境学習は、子どもだけが学習するのではなく大人も子どもたちに刺激を受けて相互に学びあう場であると確信しています。

(7) 交通環境学習の取り組みの評価

1) 取り組みの評価の視点と振り返り

交通環境学習の取り組みの評価については、既に市内で取り組みを実施している関係者と桜井谷小学校4年生の学級担任の協力を得ながら、表2.10に示す視点を基に評価しました。

桜井谷小学校の事例を振り返ると、教え方については、子どもに合わせた用語の使用など、学級担任以外が講師を務める場合は、十分な事前準備が必要となることが明らかとなりました。また教材については、「クルマ大集合」という教材の魅力やインパクトが強く、すんなりとテーマが選定されましたが、可能であれば年間の学習計画が立てられる2月から4月上旬までに多数のプログラム情報があると望ましいと考えます。それぞれの役割分担を明確にした上で、教え方や教材そしてテーマ設定については、上述した課題などを踏まえて、授業実施計画を学級担任と作成することが望ましいと考えます。教え方については、子どもに合わせた用語の使用など、学級担任以外が講師を務める場合は、十分な事前準備が必要となることが明らかとなりました。

また教材については、「クルマ大集合」という教材の魅力やインパクトが強く、すんなりとテーマが選定されましたが、可能であれば年間の学習計画が立てられる2月から4月上旬までに多数のプログラム情報があることが望ましいと考えます。

また、学級担任による事後授業において、気づきや思考を深めることができ、その知識を行動に結びつけ、家族での実践など変化がみられました。

継続面では、他の学習テーマと結びつけやすく、継続しやすいことも明らかになりました。

取組みを支える体制は、小学校からの学習ニーズを受けた市環境政策室が外部機関とのコーディネートを行い、連携体制を構築したことから、窓口の一本化を図ることができました。

そして3年目の交通環境学習であったことから、関係機関及び事業者と更なる協力関係を得ることができました。

2)調整者(コーディネータ)の役割

今回のように「クルマ大集合」を中心とした交通環境学習を実施するにあたっては、具体的な協力を得るために、関係機関や事業者と多くの調整を要します。そのためには協力者側の本来業務に資するメリットも考慮して、学習プログラムを構成する必要があります。大規模な体験型の授業を支える体制については、小学校からのニーズを受けた市環境政策室が外部機関との総合的なコーディネートを行い、連携体制を構築していくことが必要と考えます。総合的なコーディネータなしに学校現場でこの内容を行えば、学校側の負担が大きすぎて、本来の教育に影響すると思われる。

コーディネーターは、学校教育の目的を最大限求めながら、関係事業者の社会還元活動とのバランスポイントを見極めつつ、交通と環境の内容を学習としてまとめなければなりません。そして、学校教育の場で行うことから経済活動における企業広告的な内容はなじまないと考えます。あくまでも社会還元活動若しくは環境保全活動の一環で参画していただくものであると思われま

す。

学校と複数の協力者との調整は、コーディネーターが全て行うべきと考えます。学校側としては、コーディネーターとの関係を整えることで、窓口ひとつの関係で交通環境学習の実施が可能になり、持続的に学校及び関係機関や事業者との信頼関係を築けることとなります。そして、その関係が学習プログラムの改善や次年度以降の取り組みにつながると考えます。横断的な内容や作業を一元化して、輻輳する情報全てを把握し、整理しながら学級担任と調整を図らないことには、学校現場に混乱を持ち込むことになるので、そのようなことは回避しなければならないと考えられます。

3)成果

まず3年目の今回の授業を通じて、関係者調整等の実施ノウハウが蓄積されたことが挙げられます。

2つ目の成果として、学校や多数の関係機関、事業者との協力関係を築くことができたことが挙げられます。

3つ目の成果として、学校側としては、実施検討前は、環境問題を大きな距離のある問題として思われていましたが、本学習によって、地球環境問題を身近なものとして感じていただき、具体的に取り組む機会となったことです。

子どもたちは、自分達でできる環境に優しい取組みを主体的に1週間実践することによって、達成感を得ることができ、まわりの人に感謝する気持ちを持つことができました。ゲームやテレビの時間を減らして電気使用量を減らしたり、食べ残しをやめたり、水道の無駄遣いをやめたり、塾へ自転車で行くなど、生活スタイルを変える努力を行いました。特に、この取組みには家族も参加し、家庭ぐるみの取組みに発展し、親も子どもから多くを学ぶことができました。こうした取組みによって、子ども、家族の意識が変わり、行動に結びついたといえます。また、学習発表会では、子どもが行動に向けたメッセージを家庭、学校、地域に向かって発信することができました。

4つ目の成果として、小学校には、環境学習に関するプログラムに対する需要があることを再確認しました。学級担任にとっては、環境学習に関する情報が不足しているために実施するきっかけを得にくい状況にあります。しかし、情報提供を含め、学校教育や行事へのメリットを明確にできれば、取組みが促進される可能性のあることがわかりました。

4)課題と対応

課題としては、テーマ設定をどのようにするか、関係者間での目的をどのように共有すべきか、関係者の本来業務との調整、教材の供給体制、コーディネーターと各組織との調整、継続性の担保などが挙げられます。

特に、継続性を持たせるための方策としては、学習の場の広がり、内容の深まりを促進する目標設定を行うことや、通常の教育カリキュラムの作成スケジュールに合わせて関係者が準備に着手できるように留意することが考えられます。学級担任が次年度の年間カリキュラムを作成する2月から4月の時点で、国際、人権や福祉など様々な学習テーマがある中で交通環境学習プログラムを選んでもらえるように、内容に関する豊富な情報提供とあわせて学習のメリットを伝えられるようにしていくことが肝要であると思われます。

さらに、教育委員会の研究会において環境学習をテーマに組み込めるように調整を行うことや、学校、図書館司書の情報収集力の活用など、関係機関の環境学習に関わる機能の向上も同時に求められます。なお、今回の「クルマ大集合」には、多くの機関、事業者が参画し、なかでも大阪府や阪急バス(株)による車両の提供や講師・説明者の派遣というソフトとハードの両面の協力を得たことで教材としての魅力が高まりました。このような本来業務以外での活動のためには、実行にかかる経費を明確にし、負担方法のあり方を検討し、仕組みとして構築していくことが必要であると考えられます。

表 4 市環境政策室の評価視点と振り返り

| 視点 | | 桜井谷小学校の事例の振り返り | |
|----|------------------------|---|--|
| 準備 | 準備段階における関係者の役割の実行性 | 過去の実績から、学級担任・府・学識経験者・市環境政策室・事業者の役割分担は明確だった。しかし、プログラムの検討にかけられる時間は限られていた。 | |
| | 教え方 | 教員、コーディネーターの説明、実演方法などの適切性 | 子どもに合わせた用語の使用など、学級担任以外が講師を行う場合には十分な調整と準備が必要である。 |
| 学習 | 教材 | 学習目的との整合性、難易度、実践性 | 「クルマ大集合」という教材の魅力やインパクトが強かった(1学期からのつながりは学級担任が行う)。年間学習計画を検討する2月から4月上旬までに学習プログラム情報を提供することが望ましい。 |
| | 意識 | 気づき、理解、判断、行動への意思 | 学習発表会で気づきや意思を示すことができた。 |
| 評価 | 行動 | 実践変化、学習目的との整合性 | 知識と行動を結びつけることができ、家族での実践など変化がみられた。 |
| | 継続 | 継続への意思、カリキュラムや人的制約 | 他の学習テーマと結びつけやすいと継続しやすい。 |
| 連携 | 組織内部の連携、組織外部の関係機関等との連携 | 小学校からのニーズを受けた市環境政策室が外部機関とのコーディネートを行った。 | |
| 人材 | 内部の人材活用状況、外部の人材活用状況 | コーディネーターが全体のバランスをみて調整外部を活用するときには、事前準備が特に重要。 | |
| 基盤 | 地域特性との関係性、事業費の継続性 | 関係機関及び事業者の協力を得られたことが重要。 | |

出典：豊中市(2005)「環境学習の地域展開について」p. 15 表8の視点を基に作成

(8)おわりに

「(1)はじめに」に示した理念のうち、1)から3)は子どもたちのために行うことを明確にしたものですが、4)と5)は学校教育の場で、大変なご苦勞をされている学級担任及び学校長への敬意であることをあえて記しておきたいと思います。学級担任の勤務時間の基本は、朝8時30分から17時15分ですが、定時に帰宅することはまれであると聞きます。また子どもが帰宅したあとの放課後に、40人近くの子ども一人ひとりの生活指導や学習指導の検討や教材作成などの業務を黙々と行っておられる学級担任の姿を垣間見れば、まずは学級担任から子どもの様子、学習対象項目の要望などの話を伺ってから、交通環境学習のスタートをきるべきであると考えます。そのように学校の状況を踏まえた上で、子どものためになる学習内容、学校教育の一助となる学習内容と運営を検討する必要があります。行政担当者などの支援者は、交通環境学習の時間が終われば学校現場にはいませんが、学校長をはじめ学級担任は、毎日子ども及びその保護者と接することを忘れてはいけなからと考えます。交通環境学習によって、その後の学年学習計画や学校行事に悪影響を与えることは許されません。もしそのようなことになれば、交通環境学習は学校では実施できないこととなります。

また、我々は交通環境学習の内容については、学級担任よりは知識はあっても、子どもを学ばせることに関しては素人です。十分に学校の先生と学年の様子や保護者を含めた地域の状況を踏まえた、学びの要点等を精査しつつ、学級担任の支援に徹することが求められます。

豊中市の交通環境学習は4年目を迎えています。情報収集や組織的機能の構築などの問題や課題などもまだまだ多いところ。また、人材育成なども含め取り組むべきことも多くあります。そのような状況ではありますが、平成18年度においても、更なる学習内容の充実を図るべく、国土交通省ESTモデル事業に位置づけた交通環境学習の取り組みを、大阪大学大学院工学研究科と連携して進めることとしています。また、豊中市の地勢特性を考慮したプログラムも検討しています。豊中市は大阪国際空港（通称伊丹空港）が存在する都市です。したがって、国土軸の交通インフラである空港やエアラインの役割を学びながら、交通と環境を考える学習プログラムを行う予定です。このプログラムは国際的なエアラインである日本航空の協力を得ることで成立するものです。空港所在地の地元自治体が行っている交通環境学習に、さらに空から本物と夢と感動を子どもに届けることとなります。豊中市は非常にすばらしい交通企業に恵まれていることを最大限生かしつつ、実施理念の5つを常に照査しながら子どもたちのために行うことを忘れずに、学校関係者をはじめ、交通環境にかかわる関係者の力を借りることで学習プログラムと教材の充実を行っていきたいと考えています。

最後に、桜井谷小学校の学校長及び当時の学級担任の先生方に、交通環境学習へのご理解とご協力に対して、心から感謝申し上げます。また、平成15年度、16年度にまだ黎明期であった交通環境学習を受け入れていただいた東泉丘小学校及び豊島北小学校の学校長及び当時の学級担任の先生方にも感謝いたします。

そして、3年前、その学校で何日も何十時間も学級担任と学習内容を調整した市職員がクルマ大集合を大阪府とともに作り上げてきた実績があったからこそ、桜井谷小学校における充実した学習につながったこともここに記しておきます。